

大阪府立千里高等学校 第17回「千里フェスタ」及び  
「探究／SSH生徒研究発表会」「探究／SSH実践報告会」「教員対象公開勉強会」の  
開催について(ご案内)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解ご支援を賜り、ありがとうございます。

本校は平成27年度より「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」(令和2年度末終了)、平成29年度より「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」(2期目)の指定を受け、研究開発に取り組んでおります。これまで「総合的な探究の時間」や学校設定科目「探究」「科学探究」などの国際・科学高校の特色を生かした学習成果発表の場として「千里フェスタ」を実施してまいりました。

今年度は下記のとおり、「千里フェスタ」と併せて「SSH生徒研究発表会」、さらに教員対象の「探究／SSH実践報告会」「教員対象公開勉強会」を実施いたします。関心をお持ちの方にご参観・ご参加いただき、本校の取組みについてご指導、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 日時 令和4年2月5日(土) 9:00～15:30  
2. 会場 大阪府立千里高等学校 大阪府吹田市高野台二丁目17番1号  
(阪急・大阪モノレール山田駅から南へ800m、阪急南千里駅から北東 900m)

3. 内容
- |   |
|---|
| 8:30～受付   |
| 9:00～12:15  |
| ① 授業成果発表<br>・1,2年生が約20会場に分かれ、「探究」「科学探究」「情報」「英語」などの成果発表のプレゼンテーション等を行います。                                       |
| ② 探究生徒研究発表会(図書室)<br>・国際文化科2年「探究」口頭発表  |
| ③ SSH生徒研究発表会(視聴覚教室)<br>・総合科学科2年「科学探究」口頭発表   |
| 13:00～13:50 探究／SSH実践報告会   |
| ① SSH2期5年の成果  |
| ② 課題研究 『探究』   |
| 14:00～15:30<br>公開勉強会『「探究」「課題研究」を組織的にどう取り組めばよいか<br>～学校課題を克服するうえで～(仮)』<br>講師:三浦隆志先生(授業デザイン研究所代表 元岡山県立林野高等学校 校長) |

※ 今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来場者人数を制限(50名)させていただくことになりました。また、今後の感染状況によっては規模の縮小や中止をさせていただくことがありますので、ご了解ください。

5. その他 来校には、公共交通機関をご利用ください。  
当日の受付時の手指消毒などにご協力願います。

## 1. 発表について

### 国際文化科 2年『探究』 **探究生徒研究発表会** **探究プレゼン**

- ・ 『探究』では、SDGsを課題としたテーマの講座にわかれて課題研究を進めています。今回はその研究の成果を発表します。



### 国際文化科 1年「探究基礎」 **ディベート**

- ・ 社会課題を多面的に理解し、現実的な解決策を提案する力をつけるために、「探究基礎」の時間にディベートに取り組んでいます。千里フェスタでは、代表6チームが対戦します。

### 国際文化科 2年「グローバル・コミュニケーション(GC)」 **ディベート**

- ・ 英語の科目「GC」で、現在の地球的問題について英語でディベートを行っています。千里フェスタでは代表チームの対戦を公開します。



### 総合科学科 2年『科学探究』 **SSH生徒研究発表会・科学探究プレゼン**

- ・ 「科学探究」では、数学・物理・化学・生物・スポーツ科学の各グループにわかれて課題研究を進めています。今回はその研究の成果を発表します。



### 総合科学科 1年「科学探究基礎」 **口頭発表**

- ・ 「科学探究基礎」では、科学の実験や観察、データの処理、論文の書き方など、研究を進める上で必要となる技能や方法を身に付けます。身近な課題を発見し、夏休みに実験・検証を行いポスターにまとめ発表しました。千里フェスタでは代表が研究の成果を発表します。

※当日の発表タイトルは、本校HPをご覧ください。(1月下旬頃更新)

## 2. 公開勉強会『探究』『課題研究』を組織的にどう取り組めばよいか ～学校課題を克服するうえで～(仮)』

講師：授業デザイン研究所代表、元岡山県立林野高等学校長 三浦隆志

講師からのメッセージ：

いよいよ今年の四月から新学習指導要領がスタートします。そこでは、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善によって、社会で求められる資質・能力をすべての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出すことが記されています。特に、各教科の学習を考える上で「探究」をどのようにデザインするか、さらに組織的にどのように取り組んでいくかがポイントになるように思います。今回の勉強会では、「探究」について理解を深め、組織的にどのように取り組めばよいかについて、皆さんと一緒に学びます。